



助成：芸術文化振興基金



助成：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京



令和元年度(第74回)文化庁芸術参加公演

2019

10 / 24 (木) 開場 19:00 開演 19:30

10 / 25 (金) 開場 13:30 開演 14:00

開場 18:30 開演 19:00

MUSICASA

踊り
大沼由紀
Yuki Onuma

ギター、カンテ
ホセ・ガルベス
José Gálvez

カンテ
今枝友加
Yuka Imaeda

チェロ
下島万乃
Mano Shimojima

振付・構成：大沼由紀
音響：新田寛(株)パシフィックアートセンター
照明：井上正美(株)エクサート松崎
写真：川島浩之
ビデオ撮影：竹下智也(竹下智也写真事務所)
衣装デザイン：大沼由紀
衣装製作：小高光江 北村教子
宣伝美術：秋山薫子
制作：岸典子
招聘協力：(株)アルティノラ
主催：プレーニャ

大沼由紀フラメンコ教室

Studio Breña

生徒募集中

<http://www.yuki-onuma.com>

ごあいさつ

見て弾く。見て歌う。聞いて踊る。視覚と聴覚が同時進行であるフラメンコは、少人数であればあるほど、そしてお互いが近くにいればいるほど、コンタクトが密になり、一体感が強固となる。

9歳でプロデビューを果たした名門ジプシー、ホセ・ガルベス、日本人ながらそのカンテ(フラメンコの歌)の実力を高く評価される今枝友加、そして私大沼由紀の3人で、ムジカーザという凝縮された空間での公演を考えた時、「見て弾く、聞いて踊る」ことが出来れば、フラメンコ以外の音楽家ともやれるのではと、ふと思った。堅牢な決まり事の上に成り立っているフラメンコゆえ、他ジャンルの音楽、舞踊とのコラボレーションはなかなか難しいのだが、フラメンコのフラメンコでしかない手法の中に、新たな可能性の扉を開く鍵が隠されているかもしれない。

新進気鋭のチェリスト下島万乃との出会いにより、この公演の4本の柱が揃った。幼少の頃より、クラシック音楽教育を全身に浴びて育った若き演奏家が、今日は譜面無き世界に果敢に挑む。

ギリギリまで聴覚と視覚を研ぎ澄ました4人が生む音と踊りは、いったいどんなだろう。それぞれの磁力が引き合い、反発しあい、最後の合流地点に辿り着くまでの道のりを共にしていただけたら、ありがたく存じます。

大沼由紀

表紙Main photo(大沼由紀)：川島浩之

Programa

1 1人 Sola

2 深海へ Al mar profundo

3 波の声 La voz del oleaje

4 ジプシーの朗誦 Recitado gitano

5 諸刃の剣 Espada de doble filo

6 とあるフラメンコの風景 Paisaje de flamenco puro

7 合流 Confluencia

大沼由紀さんの魅力

山家 誠一

ダンサーや役者が公演後ロビーに出てきて、知り合いに挨拶していたりするのを見かけることがある。その時、彼らが思ったよりずっと小柄だったりしてびっくりすることがある。大沼由紀さんの場合も、何かの会場で紹介された時は、随分華奢な人だなと言うのが第一印象だった。何を話したかは覚えていないが、その時の大沼さんの視覚映像は、今も記憶に残っている。ところが、その後大沼さんの舞台を何度か見る機会があったのだが、最初のイメージとは全く繋がらないのだ。それ程違いがあった。

舞台で大きく見える人がいる一方、そうでない人も多い。何が違うのだろうか。大沼さんの大きさはどこから来るのか。物理的には変わらないはずだから、彼女の華奢な体は何を作り出しているのだろうか。

ある舞踏家の公演のことを思い出した。彼はトレンチコートを着た背中を観客に向け、舞台の奥に向かって20分以上の時間をかけ歩いて行った。観客は背中だけを見ているのだが、全く飽きなかった。理由は彼の背中が微妙に変化し続けたからだ。

大沼さんにあっても、微妙な体の表情の変化が、体の表現に幅を作り、それが一種体の生成変化する空間性、空気感となって我々に感じられるのではないか。その変化を生み出すのが、あの大沼さんの内部の意識・イメージへと内向する集中力ではないか。舞台上での彼女の身体には、猛烈な存在感がある。それはこの内向的な集中力が生み出している気がするのだ。それがフラメンコの動と静の交差する中で、よけいコントラストが強められ、表現者大沼由紀さんの身体の大きさになっていくのではないか。

大沼さんの身体から、その周りに放射する空気が、今日も楽しみだ。

山家誠一(やまがせいいち)
ライター。朝日新聞にラジオのコラム「ラジオアングリ」を
30年近くにわたって連載。舞踊雑誌「ダンスアート」などに
ダンスの記事を書いている。専門学校非常勤講師など。